



# みらいつうしん

1月号

2022年1月11日  
田園調布学園大学  
みらいこども園  
園長 勝浦 芳子

## 新年あけましておめでとうございます

2022年のお正月は、元旦から良いお天気が続きましたが、例年以上に気温が低く肌寒い日々を感じました。新しい年を迎えて、心身共に気を引き締める意味では、良いスタートになりました。今年は寅年ということで、暦などで調べてみますと、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく花を咲かせるとあります。世の中は、引き続き新型コロナウイルスの影響で、困難は続き、地道な努力や忍耐が必要です。寅年の人は、正義感が強く、逆境に負けない強さを持ち、チャレンジ精神が旺盛というイメージがあります。トラのように、困難に打ち勝つ強い気持ちをもって、この一年過ごして参りましょう。私たち職員一同も、今まで以上に園児一人一人に心を配り、遊びの環境を整え、より良い保育と教育ができるよう強い気概を持って精進していきます。どうぞ本年もよろしくお願いたします。

さて、子ども達の様子に目を向けますと、寒さに負けず、好きな遊びを見つけては夢中になっています。より遊び込む姿が見られ、遊びを通して学ぼうとする強い意欲が芽生え、目標や工夫、そして、友達とのやり取りから信頼や思いやりも育っていて逞しささえ感じます。昨年のお話になりますが、12月末、田園調布学園大学(DCU)の3年生の学生さんから、みらいこども園の子ども達あてに、DCU自家製の小松菜と大根、そして、メッセージカードが届きました。子ども達は、「クリスマスプレゼントだ!」「葉っぱに虫がいるよ。虫までプレゼントしてくれたよ!」「すごい」「美味しそう」と、大喜び!突然の贈り物にびっくりしていました。その後、大根は塩もみに、小松菜は汁物に、給食の調理の方に作っていただき美味しく頂きました。そして、この気持ちをにじ組さんのお手紙を書きたいということになり、書き始めたところ、それはそれはたくさんのメッセージと絵が描かれていて、子ども達の相手の気持ちをしっかり受け止め応える姿勢がしっかり育っていることに、嬉しさを超え感銘を受けました。DCUの学生さんたちも、温かいメッセージと写真を受け取り、園児たちの心が伝わり感動していただきました。そして、このやりとりは、学園長や副学長にも伝わり写真とカードを見ていただき、「とても素晴らしい」という評価を受け、大学のホームページのトップに掲載されることになりました。人との関わりが、大きく広がり、みらいこども園の子ども達の様子が、たくさんの方々に伝えられたことは、本当に誇りに思います。今後も大学との交流をより深めていき、子ども達にとってよりよい環境を作っていきたいと考えています。今回の出来事は、子ども達と学生の間に笑顔が沢山ありました。「今、思いっきり笑える世の中ではありませんが、スマイルは、人を幸福にする力があります。お互いを理解し合うきっかけになり、それぞれが幸せな気持ちになりました。

今年の箱根駅伝でも、完全優勝した青山学院大学の原監督が、どう見てもしんどそうな走者に「スマイル!スマイル!」と呼びかけると、選手の足が不思議に軽くなるように見えました。このように、人は、様々な経験や体験の中で失敗や落ち込んだ時にどう立ち直っていくかで、人生は変わっていきます。よき理解者がそばにいること、スマイルで立ち直る力をしっかり身に着けることが、とても大事だと感じます。私たち職員は、子ども達と共に生活しながらお互いを尊重し、共に学んでいきたいと思ひます。どうぞ、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



DCUより届いた野菜



お礼のメッセージ

